

2025 年 6 月 9 日

日本分類学会誌「データ分析の理論と応用」 特集投稿の募集について

「データ分析の理論と応用」第 15 巻第 1 号（2026 年夏発行予定）において、以下の特集を設けます。つきましては、この分野にかかわる研究者の方から広く原稿を募集します。

特集表題 「社会と文化をとらえるデータ分析の新展開」

ゲストエディター 河瀬彰宏 会員 （同志社大学文化情報学部 准教授）

特集の趣旨

デジタル技術の進展とデータ基盤の拡充によって、文化的・社会的な営みに関する多様な記録と記述は、分析可能な「データ」として新たな学術的価値を持つようになりつつあります。映像、音声、テキスト、行動ログ、位置情報などの非構造化データに加え、アーカイブ、ソーシャルメディア、センサデータといった情報源は、人文科学や社会科学の研究資源として活用される時代を迎えています。このような状況において、データ分析の方法論や適用範囲にも変革が生じています。

本特集は、社会や文化に関わる現象を数量的に把握する研究において、データの特性、収集方法、分析の枠組み、可視化・モデル化、解釈の視点がどのように実践されているのかを明らかにすることを目的としています。定量的な方法論の新展開に関する理論的・実践的な試みと、従来の調査法・資料読解と組み合わせた分析方法に関する論考も歓迎いたします。具体的なテーマは、文化資源の数量化、ナラティブの構造分析、趣味嗜好の可視化、地域社会における行動ログの解析、芸術表現の統計的記述、社会調査とウェブデータの連携などが挙げられます。

広く社会現象と文化現象をどのようにデータとして構造化し、それに基づき、いかに価値を見出すかという問いは、今後の人文科学・社会科学にとって重要な課題です。本特集がデータ分析を通じた新たな知見と方法論を共有する場となることを期待しております。

投稿規定・執筆要項

本誌の通常の投稿規定と執筆要項に従うものとしますが、投稿先は特集用のメールアドレス bda-culture@bunrui.jp 宛てとします。本誌の定める LaTeX 用テンプレートか MS-Word 用のテンプレートを用いて原稿を執筆してください。原則、刷り上り 10 ページ以内とします。投稿規定・執筆要項および原稿のテンプレートは次の Web ページから参照できます。 <http://bunrui.jp/journal.html#j>

採択された原稿の著作権は日本分類学会が保持します。また、「データ分析の理論と応用」において出版されるほか、J-STAGE において無償で一般にオンライン公開されます。

また、採択された論文に関する資料（データ、図表、テキストなど）を J-STAGE Data
において公開することが可能です。ただし、論文本体と別に資料に関する査読を行います。

投稿締め切り 2025 年 12 月 1 日

以上